

**第15**回宮城県選抜チーム交流大会(県中学校体育連盟野球専門部主催)は2017年11月11、12の両日、仙台市民球場などで開かれ、登米市選抜が優勝し、本年3月に開かれる「楽天イーグルス杯東北中学校選抜野球大会」(以下、東北大会)への出場権を手にした。

登米は初戦で大崎地区選抜と対戦。先発は千葉(道)。大きく落ちるカーブとスライダーを武器に、打たせて取るタイプだ。同日は強風が吹きつけ、試合が何度も中断する最悪のコンディション。

千葉(道)は、強風の影響から制球に苦しむ。四球で立て続けに走者を出したところに適時打を許し、初回2点を献上。1回裏、登米は相手投手の切れのある直球と変化球に苦しんだが、失策とボークで1点を返した。

2回は2点を追加され、1-4に。その裏、大崎は投手を交代する。この大会は、規定で投手を3人使わなければならない。ここで流れが変わる。6番及川が右前打で出塁。自慢の足

ら、後はやるだけ。気持ちの強いほうが勝つ」と選手を送り出した。

1回裏、登米は2番伊藤が中前打で出塁。3番佐藤(雄)が野選で、1死1、3塁に。4番阿部が1ゴロで倒れる間に、伊藤が生還し先制した。この後、2点を追加し3-0に。序盤のリードで、選手たちは伸び伸びとプレーし、7-1で仙台地区を破った。

**登**米市選抜の優勝は10年ぶり2度目。及川主将は「お世話になった人たちに、最高の恩返しができる。短期間で、選手間の信頼関係を築くことは難しかったが、最高のチームになった」とこり。相田監督は「選手、ベンチが一体となり、盛り上げた。勝ちを諦めなかったことが、この結果につながった」とほほを緩める。選手、監督ともに、強豪を破つての優勝に喜びもひとしお。

仙台市で開かれる東北大会には、登米市選抜と宮城県選抜が出場する。「今年のチームは、走、攻、守が高いレベルでバランスが取れている。投手はタイプの違う3人がそろい、打

# 「熱い冬」超え頂上へ

前列左から3番目が伊藤拳副将、同4番目が及川凌平主将

## 登米市選抜

### 第15回宮城県選抜チーム交流大会優勝

氏名	所属	氏名	所属
佐藤 蓮	佐沼	日野 太陽	津山
千葉 道斗	佐沼	小橋 生英	津山
佐々木歩夢	中田	佐々木麻珠	豊里
佐藤 雄飛	中田	伊藤 拳	豊里
渡邊 東治	南方	小野寺一沙	新田
千葉 春人	南方	佐藤 翔馬	新田
及川 凌平	米山	首藤 立樹	東和
阿部由宇希	米山	松浦 奎大	東和
佐藤 璃音	登米	阿部 一颯	石越
佐藤 大樹	登米	佐々木大成	石越

登米市選抜メンバー



で3盗を決めた。「良い球を投げるが、マウンドさばきはうまくなかった。プレッシャーを掛ければ、点を取れると思った」と、及川はリードなどでかく乱。相手投手のボークで、1点を返し2-4とした。

2点差となり、ベンチは控え、コーチ陣が逆転ムードを盛り上げる。そして5回裏、相手の失策やミスで逃さず、打線が曇みかけて8点を追加。試合を決めた。

**相**田慎也監督は「初戦の緊張に加え、強風の悪環境に、選手は硬くなっていた。気持ちで負けると、試合も悪い流れになる。ベンチが選手たちを鼓舞し、うまく乗せてくれた。『全員野球』でつかんだ勝利」、及川凌平主将は「苦しい試合だったが、全員が勝利を諦めなかった。技術より気持ちで勝った」と振り返る。

準決勝は、仙台南地区選抜と顔を合わせた。1回戦勝利の勢いをそのままに、3-2で勝利。決勝に駒を進めた。

決勝の相手は、仙台地区選抜。過去14回で、3回の最多優勝回数を誇る強豪だ。相田監督は「ここまで来た

「メンバーは、市内各中から実力者がそろって頼もしい。その実力者たちが、裏方に回っても嫌な顔せず、しっかりと役割を果たしている。実力もチームワークもナンバーワン」と及川主将は胸を張る。

**伊**藤と佐藤(雄)は、宮城県選抜に選ばれており、東北大会には、市選抜から出場しない。「このチームで出場できないのは寂しいが、やるからには優勝を目指す」と伊藤副将。「拳と雄飛が抜けるのは痛い。抜けた穴は『全員野球』で埋める。県選抜に勝って優勝する」と意気込むメンバーら。

東北大会に向けて、合同練習会が再開。守備の連携などを中心に、レギュラー争いも活発化している。

東北大会はトーナメント制。同県チームは、反対の山に振り分けられる。市選抜と県選抜が対戦するのは決勝の舞台だけ。頂上決戦を目指し、20人の球児は「熱い冬」を過ごしている。